

令和3年度第3期

園だより



(令和3年7月1日～8月21日)

社会福祉法人 種の会 だいな幼稚園

〒651-0064

神戸市中央区大日通 1 丁目 1-1

tel:078-252-3810 fax:078-252-3820

mail:daina@tanenokai.jp

## だいな家族、増えてます

園長 溝上 宏子

「先生、きてきてー。蜘蛛がいるの。」というので行ってみると、子ども達は床に這いつくばいながら、蜘蛛を捕まえようとしていました。でも、口を揃えて「手で掴まえるのはこわい〜。先生、手で掴まえて〜。」と言われたものの「私も無理だよ〜。どうする、どうする?」とやりとりをしていると、1人の先生がやってきて「よっしゃー!任せといて〜。」というやいなや、あっという間に蜘蛛を捕まえ「はい!捕まえた〜。」とニッコリ。

「その蜘蛛、どうするの?」と尋ねると、子ども達は小走りで走り出し、生き物コーナーのカエルのケースの前へ。「え〜!もしかしてこの中に入れるの?」と尋ねると「そうだよ〜。」と子ども達。勢い良く、ケースの中へ蜘蛛を放り込むと「がんばーれ!がんばーれ!」とがんばれコールが自然発生。「うん?どっちにがんばれ、言ってるの?」と尋ねると、子ども達は口を揃えて「かえるだよ!」とのこと。“頑張れ”コールを送りながら、じっとかえるが蜘蛛を食べるのを見ていた子ども達の姿にたくましさを感じました。また、「ダンゴムシやミミズ、蚊やハエも食べるよ。」と教えてくれました。生きたものをエサとしてあげたのは何度も経験済みだったようです。

少し時間を空けて数名の子ども達が仕事をしている私の元へやってきて、またカエルの話になりました。「さっき、蜘蛛たべたよ、かえる。」というので「おいしいのかな?」と聞き返すと「え?おいしくないよ、きつと。」というAちゃん。「かえるはおいしいと思ってるんじゃない?」とBくん。「どうなんだろうね。」と言いながら私の個人絵本「かえるのじいさまとあめんぼおはな」という絵本と一緒に読んでみました。あめんぼの両親を食べるつもりもなかったのに食べてしまい、苦くて美味しくなかったと思っていたかえるとあめんぼ夫婦の娘がかえるに口を開けて両親に合わせて欲しいとお願いするお話です。何とも情緒的なお話なのですが、子ども達の感想は「へ〜、あめんぼも食べるんだ。」でした(笑)。その後、動物図鑑や恐竜図鑑で肉食の生き物が草食の生き物を捕まえて食べているページを開いた子ども達は「可哀そう〜。」とつぶやいたので、「え?さっき、かえるは蜘蛛食べてたんでしょ?蜘蛛も可哀そうってことになるの?」と尋ねると「そんなことないよ。」とのこと。「え〜、なんで〜?」と私が言うと「かえるはだいなさんの家族だから!ごはん食べないと死んじゃうでしょ!」と返事が返ってきました。生き物コーナーにてだいな家族が増え続けている今日この頃です。

また、水遊び、泥んこあそびでびしゃびしゃになりながら”きゃ〜きゃ〜”と楽し気な声をあげて遊んだり、公園でも鬼ごっこや虫取りをして、初夏を満喫している子ども達です。コロナ対策、熱中症対策として水分補給や換気、消毒、マスクの付け外し等に気を付けながら、子ども達のだいなでの安全な生活を守っていきたいと思います。

## のびのび運動

山下 章乃

だいな幼稚園の子ども達は、天気の良い日はほぼ毎日王子南公園で遊んでいます。公園の遊具や玩具（竹馬・フラフープ・フリスビー・ボール・縄跳びなど）で遊んだり、蝶々やダンゴムシなどの虫採りをしたり、砂場で砂遊びや貝殻集めをしたり、シロツメ草などの野花で花束を作ったりしています。公園の水道からバケツに水を汲んで砂場に運ぶ子や鬼ごっこやかくれんぼに興じるグループもいます。

6月17日から水・泥んこあそびがスタートしました。子ども達はお家からご用意してもらったお気に入りのビーチサンダルを履いて、ウキウキしながら公園に出ました。保育者が園からホースを引っ張ってきてシャワーを発射すると、子ども達は歓声をあげて、跳んだり、逃げたり、自ら水にかかりにきたりと大喜びです。タライの水に砂や土を入れて泥んこづくりをする子もいました。ブランコ下に雨上がりの水たまりを見つけた子ども達は…その水たまりにダイビングしたり泳いだりしては、顔を見合わせて大笑いしているのです。

夕方は15-16時頃に、舞台を粗大あそびコーナーとして開放しています。プログラムは日替わりで、体操・触れ合いあそび・エンドレスリレー・マラソンなどをしていて、体を動かしたい子ども達が順次集まります。体操で今人気なのが、NiziUダンスや昆虫太極拳です。新しい振付も驚きの早さで覚えてしまう子ども達です。触れ合いあそびでは、子ども同士で2人組や電車になって体の触れ合いを楽しんだり、簡単なルールの中で身体表現を楽しんだりしているのですが、最近は、保育士役（合図出し）の子どもが登場し、子ども同士であそびを展開する場面が見られるようになっていて驚かされます。おやつ後は、「今日も〇〇やりたい!」「早く舞台あけて〜」と子ども達からたくさんのリクエストが寄せられます。

幼児期の運動で大切なことは、「おもしろそう」「楽しそう」な活動の中で、子ども達が主体的に様々な動きを経験するという事、また保育者から「がんばったね」「上手にできたね」などと認められたり褒められたりすることで「運動有能感（自信）」を伸ばしていく事です。最近の研究では、幼児の生活の中から、三間（遊び時間、遊び仲間、遊び空間）が失われつつあることで、幼児が運動遊びに興じる機会が減少し多様な動きを習得できない状況があると指摘されています。

降園後も、お家の人と元気に公園で遊んでいる子ども達の姿をプラザ（2F保育室）の窓からよく見かけ、嬉しく思います（「なかなか帰らせてくれないんです…。」というお家の方の声も聞きますが…）。園・保護者の方・地域の協力体制で子ども達の三間（遊び時間、遊び仲間、遊び空間）を大切にしていきたいです。

気温が上昇し熱中症に注意が必要な時期に入りました。7月からは、子ども達が楽しみにしているプールあそびもはじまります。暑さ指数を参考に活動内容や時間を調整したり、小まめな水分補給を心掛けながら、夏も元気に運動を楽しみたいと思います。

## 3期 7月1日(木)～8月21日(土)の活動

行事	7月 1日(木) プール開き
	7月 7日(水) セタ会
	7月15日(木) お誕生会
	8月19日(火) プールじまい



※気候により変更あり

8月20日(金) おまつりごっこ

マイニチリズム      ♪しゃぼんだま

運動あそび      ・サーキット      ・リトミック      ・ふれあい遊び  
・盆踊り

絵画・造形      ・動物園プロジェクト      ・色水遊び      ・折り紙  
・氷絵画

感触あそび      ・ボディペインティング      ・洗濯ごっこ

クッキング      にじ：クッキー・バター作り  
そら・つばさ：ご飯炊き・流しそうめん



## 七夕

「七夕」の由来や意味を知り、何をして過ごすのか、何を食べるのか実際に経験していきます。もうすぐだいなに「笹」が届きます。短冊に願いごとを描いたり、笹飾りを作ったりして、当日まで楽しんで過ごします。

## おまつりごっこ

お店屋さんごっこ、盆踊り、おみこし作りやお店の景品作りなどの制作活動、お客さんとして夏の遊びを楽しんだりして、様々な角度から「おまつり」を知っていきます。おまつりごっこ当日も、交代しながらお店屋さん役とお客さん役の両方を経験します。昼食・おやつは屋台風メニューです。

## マイニチリズム

「しゃぼんだま」の曲で、「♪♪♪」のリズム打ちをします。

にじ組 …引き続き、みんなで楽しくリズムに親しみます。

そら組  
つばさ組 …休符を意識してリズム打ちをします。



## 歌

「にじ」「さんぽ」「うみ」「しゃぼんだま」「おばけなんてないさ」「プールのうた」など、夏を感じられる歌を歌います。

歌から季節や天気に興味を広げ、活動に繋げていきます。

## 誕生会

特別な雰囲気の中、みんなで誕生児をお祝いします。誕生児はみんなに注目されたり、インタビューに応える経験をします。

そら組  
つばさ組  
プロジェクト  
チーム …司会や出し物を自分達で企画・準備し、保育者と一緒に誕生会を作り上げます。

## サーキット

毎週水曜日のサーキットで、下記をポイントにして取り組みます。

にじ組

…「鉄棒でのぶら下がり（こうもりのポーズ）」と「平均台の上を歩いて渡る（バランス）」に挑戦します。

そら組  
つばさ組

…腕の力を強化するために「つばめのポーズ（腕支持）」に挑戦します。

## 動物園プロジェクト

毎週火曜日のズースデイではグループ毎に分かれて活動します。前期では王子動物園が休園であったため、今期ではグループで動物園に行き、会話を大切にしながらいろいろな発見を楽しみます。また、園で制作活動や話し合いも大切にしていきます。

## 絵画・造形

にじ組

…はさみの1回切り、できる子は2回切りに挑戦します。夏の折り紙を折ったり、氷絵画で、色の広がり方や混ざり方を見たりと季節を感じられる活動をします。

そら組  
つばさ組

…氷絵画や色水遊びをします。水の量や色の濃さに注目し、混ざり方やにじみ方など色の変化を楽しみます。折り紙は、はしをきれいに揃えることを意識して、折ります。



## クッキング

にじ組

…7月はクッキーを作ります。前期で白玉豆腐だんごを作った経験を活かして生地をしっかりとこねます。クッキーを好きな形にしたり、いろいろな形で型抜きしたりします。

8月は、バター作りをします。普段飲んでいる牛乳やおやつに入っているバター、生クリーム、ヨーグルトなど乳製品について知ります。

そら組  
つばさ組

…7月は、米を炊きます。米研ぎから、水の量り入れなどを子ども達だけで進めていきます。いつも食べている「米」について詳しく学び、おいしくいただきます。

8月は、クッキングの一環で流しそうめんをします。流しそうめんの仕掛けづくりでは「どうしたらうまくいくのか?」「どんな仕組みで?」「どんな材料で?」など子ども達と一緒に考え、作ります。

## 感触あそび

ボディペインティングや洗濯ごっこなど、夏を感じられる感触遊びをします。ボディペインティングでは、気温を心地よく感じながら、自分や友達、保育者の身体を色付けていきます。その中で、自分との身体の違いや色の混ざり方、変化を知っていきます。洗濯ごっこでは、「洗濯」を学びながら、水の冷たさや泡の面白さを感じます。

## プール・水あそび

### にじ組

…一人ひとりに合わせ、無理なく水に慣れることから始めていきます。バタ足をしたり、ワニさん歩きをしたりします。できる子は水に顔をつけます。プールの中で友達とふれあう楽しさを感じていきます。

### そら組 つばさ組

…プールの中でルールのある遊びをしていきます。水の中で友達と協力したり競い合ったりしながらふれあい、水で遊ぶ楽しさを感じます。



だいな幼稚園 第3期 活動&行事カレンダー  
7月1日(木)～8月21日(土)



7月		活動	その他
7/1	木	プールあそび	
7/2	金	コーナーゾーン・王子南公園	
7/3	土		
7/4	日		
7/5	月	洗濯ごっこ	
7/6	火	体育あそび・氷絵画	
7/7	水	七夕祭り	
7/8	木	リトミック・プール	
7/9	金	コーナーゾーン・王子南公園	避難訓練
7/10	土		
7/11	日		
7/12	月	リトミック・プール	
7/13	火	動物園プロジェクト	親子トレーニング教室(希望者のみ)
7/14	水	体育あそび・折り紙	
7/15	木	誕生会	
7/16	金	コーナーゾーン・プール	
7/17	土		
7/18	日		
7/19	月	リトミック・プール	
7/20	火	動物園プロジェクト	歯磨き指導(4・5歳)
7/21	水	体育あそび・はさみ	
7/22	木		
7/23	金		
7/24	土		
7/25	日		
7/26	月	リトミック・プール	
7/27	火	動物園プロジェクト	お弁当日・親子トレーニング教室(希望者のみ)
7/28	水	体育あそび・はさみ	身長測定・お楽しみライブ
7/29	木	クッキング	身長測定
7/30	金	コーナーゾーン・プール	
7/31	土		
8/1	日		
8/2	月	ボディペインティング	
8/3	火	動物園プロジェクト	
8/4	水	体育あそび・のり	
8/5	木	リトミック・プール	
8/6	金	コーナーゾーン	
8/7	土		だいなで保育・お弁当日
8/8	日		
8/9	月		
8/10	火	リトミック・プール	
8/11	水	体育あそび・クレパス	
8/12	木	リトミック・プール	
8/13	金	コーナーゾーン	
8/14	土		
8/15	日		
8/16	月	リトミック・プール	
8/17	火	動物園プロジェクト	お弁当日
8/18	水	体育あそび・クッキング	
8/19	木	リトミック・プール	
8/20	金	コーナーゾーン・おまつりごっこ	
8/21	土		



## お知らせ

- ◎6月25日より、種の会の理事長に片山 雄基が就任いたしました。  
前理事長の片山 喜章は、会長（常務理事）として、法人全体の保育者研修と保育研究に従事することになりました。
- ◎現在、よい子ネットとチャイルドケアウェブの両方で保護者の方にお知らせを配信しておりますが、7月からはチャイルドケアウェブのみの配信に変更いたします。  
園からの配信は大切なお知らせが多くありますので、必ずお目通し願います。
- ◎8月7日（土）の土曜保育は、なかはらこども園が夏祭りの為、だいなで行います。登園される方は、お弁当をご用意ください。
- ◎名前がない持ち物ものが多く困っています。全ての持ち物に分かりやすく記名をお願いします。ロッカーにご用意いただいている汚れ物用ビニール袋にも1枚ずつ記名をお願いします。
- ◎汗をかいたり、水遊びや泥んこあそびをしたりして、着替えることが増えています。ロッカーの着替えは毎日補充してください。パンツをお貸しした場合は、新品のものをご返却いただくこととなりますので、特にパンツは十分な枚数をご用意ください。ロッカー内は、子どもが衣類を取り出せるように、整理整頓をお願いします。
- ◎水・泥あそびの際は、熱中症対策として帽子をかぶります。帽子が濡れて持ち帰った場合など、洗濯が間に合わない時は、ご家庭で使用されている帽子を洗い替えとしてお持ちください。
- ◎毎日ご用意いただいている水筒のお茶は一日を通して飲用します。新鮮なものを水筒に入れてください。
- ◎7月～8月中旬はプール期間です。天候により実施日が変更になる場合や感触あそびなどで水着を着用する場合があります。プール期間中は毎日プールのご用意（プールバッグ・水着・ケープタオル）をお願いします。
- ◎今年の7～8月は、オリンピックの開催に伴って、祝日が移動しています。お間違えのないよう、ご注意ください。

## 動物園プロジェクト

松村 崇司

春の装いから季節はすっかり暑くなり、夏到来間近といったところでしょうか。緊急事態宣言は解除されましたが、まだまだ安心・安全とはいえないご時世、園でもできる限りの対策を講じ、細心の注意をはらって日々過ごしています。子どもたちもこのことは理解しており、少なからず協力して過ごしていることに改めて未曾有の事態なんだと認識しています。

王子動物園も緊急事態宣言中は休園、“またか…”とついつい心の声が漏れそうになりますが、昨年からの出来事に、もはや動揺すらしなくなってきたのも事実です。「王子動物園が閉まっているようじゃ何もできないのではないかな…」と考えたくなりますが、王子動物園が閉まってもプロジェクトとして楽しく活動できることはたくさんあります。2期、パンダ・うさぎ・コアラの異年齢グループでの活動が始まりました。

「まず最初のテーマをどうする？」と保育者同士で話し合い、TwitterなどのSNSやHPから王子動物園の最新の情報にアンテナを向け「できるだけタイムリー（時機にかなっているよう）な話題で」進んでいきました。パンダGでは「パンダの毛（Twitterより）について」、うさぎGでは「自分たちの動物園マップ制作」、コアラGでは「GWに亡くなったチンパンジー、ユキちゃんのお話」について子どもたちと対話をしながら取り組みました。興味・関心が高く、各グループのお話（話題やテーマ）に夢中になって取り組む子どもがいて「それはこう（自分の考え）なんじゃないかな？」「僕・私はこう思う」といったことをグループみんなの前で堂々と話す姿は立派です。それにつられるように「僕・私はこう思っていた」「実は一緒のことを考えていた」などと触発されて、いい相乗効果が生まれているようにも見えます。玄関横に展開している動物園プロジェクトのドキュメンテーション（その日の動物園プロジェクトを写真や文書を使って記録したもの）やマインドマップ（子どもたちからの思い・発言・思考などを枝分かれさせ事実や事象と結びつけたもの）があります。当日のリアルな子どもたちと保育者のやりとりや取り組みが記載されていますので、保護者の皆さまにもぜひご覧いただき、ご家族との話題にさせていただけると嬉しいです。これを元に子どもたち自身がそのドキュメンテーションを目にし、自分の中で振り返りをし、次の活動に活かすというねらいもあります。それは私たち保育者も同じです。

例え今は動物園に行けなくても動物にまつわる事柄はたくさんあります。そんなありとあらゆる方向にアンテナを張って、保育に活かしていくことが私たちの役目であり使命だと感じています。3期も継続して今のこのスタンスで取り組んでいこうと考えています。



## そら・つばさ組

先月、そら・つばさ組でルールのある遊び“きらきらじゃんけん”“あいこでどっかーん”“椅子取りゲーム”をしました。ゲームをする前に、ゲームの動画をみんなで見てみると、子ども達はゲームのルールに気付いたり、友だち同士で「〇〇だよね？」とゲームの内容を確認し合ったりしていました。実際にゲームをしてみると、ルールを理解している子どもがいる一方で、理解しきれず戸惑っている子どももいました。ルールを理解している子どもが、「負けた人は〇〇するんだよ！」「勝ったら〇〇して！」と懸命に伝え合っている姿がありました。今度は自分たちがゲームをしている光景を動画を見て、それぞれ気付いたことをみんなでし合いました。すると、子ども達から「(意味が)分かった！」「もう一回やってみたい！」と声上がり、またゲームの再開です。

保育者が全てを説明したり答えを言わなくても、子ども達は実践と振り返りの中で、自分で考え、理解しようとしているのでした。

コーナーゾーンあそびでは、好きな友だちと一緒にあそびを選んで楽しみますが、ゲームの中では、「好きな友だち」だけではなく、誰とでもじゃんけんをしたり身体に触れあったりする経験をします。これからもルールのあるゲームあそびやふれあいあそびに取り組み、ルールの中で自己発揮する楽しさを経験していきたいです。

そら・つばさ組・コアラグループ担任 伊藤 結



## にじ組

にじ組の子ども達は、園生活の流れがわかるようになって、見通しをもって1日が過ごせるようになってきました。自分で身の回りのことに取り組んだり、行動できる場面が増えています。公園に行く際は「次は水筒と帽子持つ！」や「今日は〇〇の日！楽しみ～」など保育者に話してくれるようになりました。また、仲のいい友だちもできてきたようで、「今日は〇〇ちゃんと約束したから一緒に寝る！」と言って後から来る友だちの寝る場所を先にとってあげている子どももいます。登園時にお父さんお母さんと離れがたい子ども、好きな友だちの顔を見つけると安心して、お父さんお母さんを笑顔で見送ることができる場面もありました。

最近では、水遊び・泥遊びなどこの季節ならではの遊びを友だちと関わりながら楽しんでいきます。戸外遊びの時だけでなく、コーナーゾーン活動の際も「一緒に〇〇しよう」と友だちを誘っている声がよく聞こえてきます。そして、手を繋ぎそのコーナーへ行くという微笑ましい場面にもたくさん出会います。3期のプール遊びやお祭りごっこなどでも、友だちとたくさん関わって遊びたいと思います。

にじ組・うさぎグループ担任 鈴木 さやか



## だいな窓から



最近うれしいことがふたつあったのでご紹介します。

ひとつめは、マドンナ（事務室）で仕事をしているとき、2階にいる保育者から「〇〇ちゃんがあげちゃんに伝えたいことがあるのでマドンナに行きます」とインカムで伝えられました。その子は降りてくると、「あげちゃん、コロナが終わったら一緒にお昼ご飯食べようね」と言ってくれました。

もうひとつは、「〇〇ちゃんがあげちゃんに渡したいものがあるそうなのでマドンナに行きます」とインカムで伝えられ、その子は塗り絵を持ってきてくれました。「どうしてあげちゃんにくれるの？」と聞くと、「あげちゃんが喜んでいるのが好きだから」と言ってくれました。

伝えてくれる内容ももちろんうれしいのですが、最近は3歳児のお友達も「あげちゃん」とたくさん呼んでくれるようになって、わたしのことも覚えてくれていることがとってもうれしいです。

事務 揚村 麻菜美



種の会は広報活動に力を入れ始めました。各園に広報担当者を設置し、連携して取り組み始めています。だいな幼稚園では、保護者の皆さんをはじめとする地域の方々に向けた報活動に励んでいきます。「だいなに来てよかった！」「だいなっておもしろそうだな～」と思ってもらえるように、園風土や具体的な取り組みを発信していきます。この園だよりも、ホームページでの配信が始まっています。ホームページや掲示板をぜひチェックしてください。

また、種の会の法人 SNS が立ち上がりました。Instagram (@tanenokai) を中心に、法人全体の考えや取り組みを紹介していますので、こちらもぜひご覧ください。

保育士 兼 法人広報 中村 聖子

### 第3期 食事だより

蒸し暑い日々が続いています。食欲が落ちやすい時期になりますが、さっぱりとしたメニューやおやつにはゼリーなどを入れています。子どもたちは毎日もりもりご飯を食べています！水分補給をしっかりと行い、夏を元気に過ごしましょう！

※次のページへ

## ●旬の食べ物

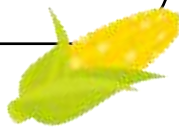
### おくら

オクラに含まれる独特のネバネバした成分は主に食物繊維であり、便秘や下痢を予防し、大腸がんのリスクを減らす効果があります。また、β-カロテンが多く含まれており、免疫力がアップされるほか、体内でビタミンAに変換されるため、髪や皮膚、視力などの健康維持にも効果的です！



### とうもろこし

とうもろこしはビタミン、ミネラル、カリウム、亜鉛、鉄などの栄養素がバランスよく含まれており、夏の疲れやすい時期に、体を疲れにくくする効果があります。しかし、野菜の中でも炭水化物が多いため、カロリーと糖質が高いため食べすぎには注意です。



### なす

なすは水分とカリウムが多く含まれており、体を冷やす効果と利尿作用があり、体内の熱を排出してくれる働きを持ちます。また、ナスニンと言われる成分をふくんでおり、これはポリフェノールの仲間です。強力な抗酸化作用があり、がんや生活習慣病の予防が期待されます。



### トマト

トマトに含まれるリコピンはなすにも含まれている抗酸化作用が高く、同じ効果をもつビタミンEの100倍以上も含まれています。リコピンは油に溶けやすいため、油と一緒に食べると吸収率がアップし、生より加熱調理すると吸収率が高まります。



## ●七夕のお話

7月7日は七夕です。七夕は日本だけではなく、中国、韓国、台湾、ベトナムなど様々な国で行なわれており、日本で行なうようになったのは中国から伝わってきたとされています。行事食としてよく食べられる「そうめん」は天の川に見立てて食べるという説がありますが、中国から伝わってきた際に、「索餅（さくべい）」と言われる中国のねじり菓子に見立てられたという説もあります。

中国では「七夕に索餅を神様にお供えし、無病息災を祈る」という風習があり、日本でも食べられるようになりました。だいな幼稚園では7月7日に、お食事に「そうめん」とおやつに「索餅」を食べます！ここで、索餅の作り方を紹介します！

### ●索餅の作り方

#### <材料>

小麦粉	75g
上新粉	75g
牛乳	40g
卵	30g
砂糖	15g
揚げ油	適量

#### <作り方>

- ①ボウルに小麦粉、上新粉、砂糖を入れて混ぜ合わせる。
- ②別の容器に卵を溶き、牛乳を加えてさらに混ぜ合わせる。
- ③①に②を流しいれダマがなくなるまで手でよくこねる。
- ④表面が滑らかになったら手で20cmくらいの長さになるまで転がしながら伸ばす。
- ⑤ひも状になった2本の生地をねじっていく。
- ⑥ねじり合わせた⑤を180℃の油で揚げる。

★是非、作ってみてください！





## ●お台所からのメッセージ

先日ある女の子が、私に手作りの「りょうりのほん」をくれました。とても丁寧に紙をセロハンテープで貼りつけ、6ページもあるノートの形になっていました。中には、からあげやスパゲッティ、先日クッキングで行ったうどんなど様々なメニューの名前が書いてありました。私は嬉しくて、そのことを保育士に話すと、「2日ぐらい前からずっと大切にされていて、『おすす先生にあげた〜』って言っていましたよ！」と聞きました。次の献立はその「りょうりのほん」を参考にたてようと思います（笑）。

栄養士 二宮 鈴菜

6月のある日、3歳児の男の子が炒め物に入っていた「パプリカ」を除けて食べている姿をみて、私は「ねえねえ、パプリカ食べないの？」と聞き、パプリカをのせたスプーンを口元に近づけると、その子は首を横に振りパプリカを食べる気配はなく、もう1度「一口だけ頑張ってみない？」と声をかけてみましたが、首は横に振ったままでした。しかしあきらめずに、「お肉と一緒に食べたらおいしいよ！」と声をかけると、なんと口を開けて1口食べてくれました。残りのパプリカは食べることはできませんでしたが、他のお皿は全てピカピカにきれいに食べることが出来たのでデザートフルーツを食べてとても満足そうな表情を見ることが出来ました。苦手な食べ物は大人でもなかなか克服するのは難しいですが、1口頑張る姿を見て私はとても勇気づけられました。第3期の献立には、夏野菜を豊富に盛り込んでいます。そのため中には、苦手な食べ物も出てくるとは思いますが、まずは1口頑張る子どもの姿がたくさん見られると嬉しいです。

栄養士 山本 菜那

お昼ご飯の際、4.5歳児はビュッフェで「ちょっと」や「大盛り」など自分の食べられる量を自分で申告しています。どうしても苦手な野菜がある子どもに「頑張る！1つだけ食べてみよ？」と試みると「頑張る！」と食べてくれました。おやつになった時に「先生、ちゃんと頑張る！食べれたよ！」とニコニコ笑顔で伝えてくれた時はとても嬉しかったです。これから苦手な野菜がある子どもがいたら、話しかけたり励ましたりしながら楽しい雰囲気の中で少しでも「食べてみよう」と思えるようにしていきたいと思っています。

調理師 荒巻 美帆

## # ユナタン①

2021年7月 片山喜章

6月25日まで理事長でした。私個人の適性は、保育(園)や子ども(集団)について探求することにあります。学識系ではなく実践系です(還暦をすぎても尚、一部の園の子どもからの人気は強いです)。子どもは、良い事、悪い事をします。悪い事をしたときは、しっかり叱るのが正しい大人の態度です、ね。「しっかり叱らないから、子どもに規範意識が育たない」とふつうに考える人は多くいます。果たしてそんな単純な捉え方で良いのでしょうか。

「世界の今」も「これまでの人間社会」も、本質的に倫理や道徳や善悪ではなくて支配欲や利害関係や因襲など複雑な歴史で彩られており、不条理は山ほどあったと思います。一方、子どもの言動を○×問題のように「善か悪か」で判断し、形的に善に導くことが教育と考え「できる、できない」で人間性までも評価する価値基準に、私たちは今も尚、支配されています。どうして乳幼児期や学童期の子どもには模範となるような言動を求めてしまうのか、それが安心、安全だと邪推してしまっていないのか、まずはそんな大人の認識の点検が必要です。

法人の3つの小規模保育園(1園の定員は1、2歳児で12名)では毎月、合同で事例検討会をしています。先日(6月24日開催)、1つの園において排泄前、自分でズボンをおろさない2歳児のXのエピソードがありました。A先生は「自分でやってみようね」と気長に誘い掛けますが頑なに無視します。「じゃあ、途中まで先生がおろすから、その後は自分でおろしてね」と妥協案を投げかけるとXはおもむろに片方のズボンをおろしかけました。“しめた”と思ったA先生は「すごい」と言いながら自分の手を放すと、Xも手を放してしまいました。

ズボンはXの片足の膝のあたりで止まったまま。(ナンデナン!?)とA先生のつぶやき。そこでA先生、「じゃ～、こっちは足は全部先生が脱がせてあげるから、そっちは自分でしてね!」と妥協案 part2。Xは片方の足をA先生にすんなり脱がせてもらいました。けれどもそこでフリーズ…。Xに、もう片方を「自分でおろそうか」と笑顔で誘ってみても、無視、無言、無表情。(ナ、ナンデナン part2)。で、結局、XはA先生にズボンを両足ともすべておろしてもらって、いざ、トイレにゴー。この間のやりとりは、一体、なんだったんでしょう。わずか数分の物語のなかに、「生活習慣の自立」「保育者の願いと迷い」「その子らしさの理解と対応」という要素が含まれていることを検討会で確認しました。(裏面へ)

1、2歳児だけで12名の施設。そこに常時3~4名の保育者がいる。しかも保育室は決して広くなく、当該園では、すべての保育者がすべての子どもを観察できるというある意味、好条件、ある意味、やや窮屈な環境(大人の感覚で子どもは全く感じていない)。

この日の検討会では、2歳児Xの個性(月齢と人となり)について、そしてA先生のこの場面での心の動きについて、他の2園の先生たちとともに考察しました。「生活習慣の自立」は、乳児保育において保育課題の1つであり保育者の願いです。なかでも「着脱衣」は、焦らなくても良いと一般に言われますが、集団保育の現場においては「できれば早く獲得してほしい」と願うのは、古今東西、保育者のしぜんな気持ちです。保護者も家庭ではなかなかうまくできないので「園でお願いします」と園に期待している部分が多いのも事実です。

しかし、A先生のエピソードを読み解くと、XはB先生の前では、たいていの場合、自分で脱いだり、はいたり、自立しているとのこと。先生によって自分の振る舞い方を使い分けているのです。まさに謎のミスターX。A先生は甘いのか、B先生は恐いのか。Xは、頭のよい子？ 使い分けするのは良くない子？ みなさんはどう感じますか(実際問題、Xのような大人は山ほどいます)。著名な専門書には「子どもがしてほしい」と言ったら小言を言わずに「とことんしてあげることが大事」とあります(同感です)。「柔らかな心持ちでしてもらった」ことが堆積すると子どもの方から「自分でするから手伝わないで」と「自立」につながると解釈されています。

Xが「ぬがせてほしい、はかせてほしい」といわないのは、先生たちが「それが良くない事」と考えていることをわかっているからかもしれません。しかし「してほしい」と真に願っていることを口外できる事は健全に育つための過ごし方だと思います。となるとXが言えない雰囲気を作ったのは誰？ A先生は救世主？(笑) 近頃の小中学生が悩みを口にできないのは、社会から「正論」で諭され、まともに扱われないことに起因していると思われまます。

この事例検討会終盤、全員で確認したのは、多様な先生同士の関係性についてです。

「子どもになめられる先生は、良くない」という職員文化を作らない。むしろ逃げ道も大事。「子どもをきちっとまとめられる先生を良い先生と評さない」という価値観を確認しました。保育園は職員同士のある意味、多様性の風土が大事かもしれません。子どもは大人の何倍ものパワーで自分の力で育っていくものです。先生は、乳幼児であっても伴走者です。

Xは、最近、どの先生に対しても「ちてちて(してほしい)」と訴えるとのこと。(了)